

海外研修の主な日程

2月					1月						
6日	5日	4日	3日	2日	1日	31日	30日	29日	28日	27日	26日
羽田着、青森へ	ウツハラからストックホルム、ストックホルムから帰国の途へ	ヴァッテンフォール高校の生徒と交流会	フォルシユマルク原子力発電所（PR施設、フォルシユマルク中低レベル放射性廃棄物貯蔵施設見学）	環境モデル地区ロイヤルシーポート、ストックホルム市内見学、ウツハラへ	ループル美術館見学。パリからストックホルムへ	シエルブルからパリへ。世界遺産「ヴェルサイユ宮殿」、パリ市内見学	グリーンヤール高校の生徒と交流会	シエルブルからラ・アージュへ。オラン社のラ・アージュ再処理施設見学	世界遺産「モン・サン・ミッシェル」見学。シエルブルへ	羽田からパリ、カーンへ	青森から東京へ。スウェーデン、フランス大使館を表敬訪問



スウェーデンのヴァッテンフォール高校での記念撮影

報告

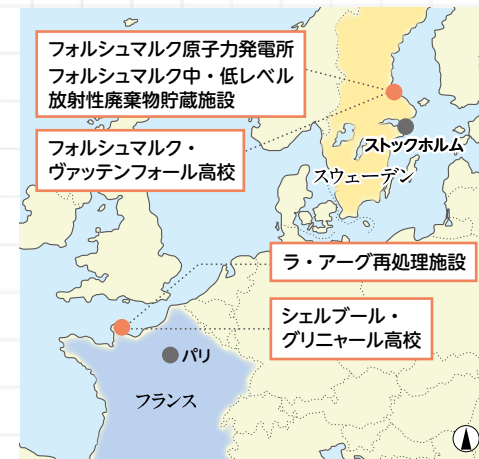
第28回 青森県の高校生による海外エネルギー事情研修会

新発見 ～未来きりひろくエネルギー～

よく見て、聞いて、ディスカッションを通じて  
 多様な視点(海外独特の異文化、エネルギー、土地柄)を発見し、視野を広げよう

※参加高校生6名が相談して決めた研修期間中のスローガン

青森県商工会議所連合会主催の「高校生による海外エネルギー事情研修会」が昨年引き続き2026年1月26日(月)～2月6日(金)の日程で実施されました。世界各地で国家間の紛争や対立によってリスクが顕在化し、その影響が多方面に発生している状況の中で、ヨーロッパのエネルギー施設の見学と現地高校生との交流を通して海外のエネルギー事情を学び、資源が乏しい日本における将来のエネルギーのあり方について考えることを目的としています。1993年度に始まった本研修会には、これまで28回にわたり合計192名の高校2年生が参加してきました。東北エネルギー懇談会はエネルギー全般に関する情勢に応じた研修とするため運営協力を行い、視察団に同行しましたので概要を報告いたします。



概要

- 研修参加者 / 青森県の高校2年生6名(訪問当時)
- 訪問国 / フランス、スウェーデン
- 実施時期 / 2026年1月26日(月)～2月6日(金)11泊12日
- 団長 / 青森商工会議所中小企業振興部経営支援課主幹(訪問当時) 村田 麻奈美 氏
- 引率教諭 / 青森工業高等学校教諭 小山内 好子 氏(訪問当時)
- 主催 / 青森県商工会議所連合会
- 後援 / 青森県、青森県教育委員会  
 (株)東奥日報社、(株)デーリー東北新聞社、(株)陸奥新報社  
 青森放送(株)、(株)青森テレビ、青森朝日放送(株)

事前研修会で  
 エネルギー事情を学ぶ

公募により選ばれた青森県内の高校2年生6名は、2025年10月、青森県むつ市での事前研修会において、国内外のエネルギーの現状と課題を学び、また、東北電力東通原子力発電所と日本原燃原子燃料サイクル施設を見学し、研修先での施設見学や人物交流の準備を行いました。そして、年が明けた1月には青森市において2回目



2026 1/6 海外高校での発表の打ち合わせ



2025 10/14 エネルギーの現状と課題について学ぶ



1/8 プレゼンテーションの練習 関係者からアドバイスを受ける



10/15 日本原燃PR館見学



大使館内でSKBの竜氏からレクチャーを受ける



フランス大使館フロアでベルナル原子力参事官と記念撮影

海外研修スタートは  
 大使館への表敬訪問

1月26日、一行は東京へ向かい、スウェーデン大使館、フランス大使館を表敬訪問しました。スウェーデン大使館ではSKB(スウェーデン核燃料・廃棄物管理会社)日本事務所の竜氏から、また、フランス大使館ではベルナル・ミッシェル原子力参事官から、それぞれの国のエネルギー事情について詳しく説明いただき、視察研修への激励を受けました。

の研修を行い、「英語による自己紹介」「地元青森の紹介」「日本のエネルギーの現状と課題」の3つのテーマについて自ら発表できるようにアドバイスを受けながら練習を重ねました。

## いよいよフランスへ

1月27日午前、羽田空港を出発。ロシア上空を避け、北極圏を通るルートでパリ



出発前、自分たちが乗る飛行機の前で



機内の様子

シャルル・ド・ゴール空港までおよそ15時間、無事入国審査を終え、続いてバスで3時間移動し、最初の宿泊地フランスのカーンへ到着しました。

## 世界遺産「モン・サン・ミッシェル」に感動！

1月28日、いよいよ現地での研修がスタートです。カーンを出発する前に、当日の予定と注意事項を確認。その後、ノルマ

特に印象的だったのは施設内で働いている人たちの元気で明るい様子です。仕事に自信と誇りを持っているという印象を受けました。



(オラノ社提供)

### オラノ社 ラ・アージュ再処理施設

1976年運転開始。フランスはもとより、ドイツ、日本など主要10カ国から使用済核燃料を受け入れ再処理している。使用済燃料の再処理可能な約96%（ウラン95%、プルトニウム1%）の物質をリサイクルし、原子炉用の混合酸化物燃料（MOX）などの新しい燃料を製造することができる



ラ・アージュ再処理施設を見学



日本原燃からの研修員と一緒に記念撮影



使用済み燃料を扱うマニピュレーターについて説明を受ける



厳かな修道院で歴史を学ぶ



モン・サン・ミッシェル名物のオムレツを堪能！



晴天の下、モン・サン・ミッシェルをバックに記念撮影



出発前と到着後は打ち合わせが日課

ンデー地方の港町シエルブルに向かう途中、世界遺産モン・サン・ミッシェルを見学しました。この時期では珍しい雲一つない青空の下、憧れの世界遺産を堪能し一気にボルテージが上がりました。

## フランス ラ・アージュ再処理施設を見学

1月29日はシエルブル近郊コタンタン半島にあるオラノ社ラ・アージュ再処理施設を見学しました。1976年から稼働しているラ・アージュ再処理施設は青森県六ヶ所村の日本原燃原子燃料サイクル施設のモデルとなった施設であり、これまで技術指導や運転員研修に関する人的交流が継続的に行われています。見学時も日本原燃からの研修員と交流することができました。本格稼働している施設ということで、やや緊張した中で白い防護服に着替え、さまざまな設備をじっくり見学し再

処理施設についての理解を深めました。



会議室で説明を受けている様子

グリーニヤール高校生との交流

1月30日にはシエルブルにあるグリーニヤール高校生と交流しました。ホテルからおよそ徒歩20分で学校に到着。全校生徒600人の中で日本語を学んでいる60人から校門前で盛大な出迎えを受けました。その後、場所を移して歓迎のお茶会。そして意見交換会がスタート。練習してきた英語で一人ひとりが自己紹介、そして2人ずつ3グループごと

に青森の紹介と日本のエネルギー事情について発表しました。グリーニヤール高校側からも地元で紹介とエネルギー事情について発表があり、その後、意見交換が行われました。シエルブルはラ・アグ再処理施設やフラムンビル原子力発電所に近く、現地の生徒の半数程度の親族がそれらに関連した施設で働いていることもあって、エネルギーに対する知識が豊富で関心が高



校門前で日本語を学ぶ60人がお出迎え



講堂でお互いの発表と意見交換



まずは「おもてなしタイム」



文化交流の様子

という印象を受けました。その後、日本から持参した駄菓子やけん玉、習字などの日本文化の交流が行われ、大いに盛り上がりました。また、夕食会場までは市内を徒歩で案内してもらい、最後は和やかなディナーで1日を終えました。

グエルサイユ宮殿、ルーブル美術館に感動！そしてスウェーデンへ

1月31日、3泊したシエルブルのホテルからパリにバスで移動しました。途中グエルサイユ宮殿を見学、そしてパリ市内を車窓で見学後、市内のホテルに宿泊しました。

2月1日はルーブル美術館の見学からスタート、展示品の数の多さと大きさに



ディナー後の記念撮影

圧倒されながら、フランス公認通訳ガイド小林さんの「これだけは！」という展示品の説明を聞きながら見学して、次なる訪問地スウェーデンへ向かいました。



ヴェルサイユ宮殿 鏡の間



ルーブル美術館をバックに



エッフェル塔前

ストックホルム市内観光、環境モデル地区、ロイヤルシーポート見学

2月2日はストックホルム市庁舎、ストックホルム・コンサートホール、旧市街、ヴァーサ号博物館を見学した後、外気温がマイナス8℃の中、環境モデル地区ロイヤルシーポートの街を徒歩で見学しました。特に、資源循環型の都市システムには大きな感動を受けました。



ロイヤルシーポートの都市システムの説明を聞いている様子



極寒の中、ロイヤルシーポートのゴミ処理システムを見学



王宮前での衛兵交代式



ノーベル賞の晩餐会が行われる市庁舎のホール



毎年12月10日にノーベル賞授賞式が行われるストックホルム・コンサートホールのステージ



ヴァーサ号博物館 17世紀の木造戦艦の迫力に圧倒されました



知事への報告の様子



知事と記念撮影



座談会でそれぞれからコメント



最後に全員で「研修万歳」

2月24日には青森県庁に宮下宗一朗知事を訪ね、今回の海外研修の報告を行いました。研修に参加した学生からは「エネルギー問題に対する現地高校生の知識と関心の高さに驚いた。日本でもエネルギー教育の充実が必要と感じた」「青森県でも

**青森県宮下知事への表敬訪問と  
研修を振り返っての座談会**

駄菓子で文化交流

菓子の食べ比べや折り紙、習字を体験してもらいましたが、ここでも自分の名前を漢字にする習字は人気でした。ランチ、ディナーでも交流が広がり、互いに理解を深めた最終日となりました。



現地の広報スタッフから貯蔵施設の説明を聞く



フォルシュマルク原子力発電所をバックに



フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設  
スウェーデンの首都ストックホルムの北方120kmにあるフォルシュマルク原子力発電所の3kmの沖合海底に位置する

2月3日、気温がマイナス16℃という極寒の中、SKB広報スタッフから、フォルシュマルク原子力発電所構内にある中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設の概要説明を受けた後、構内を見学しました。その後、アップサラのホテルに戻り、研修の締めくくりとなるヴァッテンフォル高校との交流に向けた最後の打ち合わせを行いました。

**フォルシュマルク放射性廃棄物  
貯蔵施設、原子力発電所（PR館）**

2月3日、気温がマイナス16℃という極寒の中、SKB広報スタッフから、フォルシュマルク原子力発電所構内にある中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設の概要説明を受けた後、構内を見学しました。その後、アップサラのホテルに戻り、研修の締めくくりとなるヴァッテンフォル高校との交流に向けた最後の打ち合わせを行いました。



原子力発電所PR館にて説明を聞く



ホテルに戻って発表の最終確認

**ヴァッテンフォル高校との交流**

2月4日、今回の研修の最後となるヴァッテンフォル高校生との交流です。同校はスウェーデン政府が100%出資する大手国有エネルギー会社ヴァッテンフォル社の系列の高校です。

学校到着後、歓迎を受けた後、教室に入り、学校内で選抜された12人と交流をスタート。グリニャール高校と同様に、自己紹介、青森の紹介と日本のエネルギー事情について発表しました。そして、ヴァッテンフォル高校側の発表を受けた後、活発な意見交換を行いました。

その後、fika（フィカ）と呼ばれるスウェーデン伝統のコーヒータイムを体

原子力施設があるので（次世代層向けに）見学会をすべきといった感想が出されました。報告を受けた宮下知事からは、「今後の日本が豊かに成長し続けていくためには最善の電力供給のあり方を常に検討していく必要がある。今回の研修がその基礎となる学びとなり、皆さんにとって今後の学校生活や人生を送る上で貴重な素晴らしい経験になることを期待している」とのお話をいただいた後、記念撮影を行い報告会が終了しました。

その後、青森商工会議所に移動し、研修に参加した学生や同行者それぞれが今回の研修全般に関してコメントし、研修会すべての日程を終了。最後に研修

験したり、敷地内の建物や寮を案内してもらい、現地の高校生活を垣間見ることができました。



最終日、ホテル出発前に気合いを入れている様子

そして、文化交流です。日本の駄



エネルギー問題について意見交換



高校敷地内を見学



通訳を介さずのランチタイム

団一行で成功を祝って、「研修万歳」を行い、次回の研修へバトンを渡しました。

**あとがき**

参加高校生全員が初めての海外渡航、しかも12日間ということで期待と不安もありましたが、五感で外国を堪能したこと、現地施設の見学や同年代の高校生と交流できたことで日本に暮らす自分たちを見つめ直す良い機会になりました。エネルギー資源が乏しい日本において、生まれ育った青森県がどのような役割を果たすことが望ましいのかを考えることができたことは、郷土に対する誇りと自信につながるものと思います。

今回の研修を通して、次世代を担う若者たちが日本のエネルギーについて適切に判断し、来たるべき未来をきりひらいていくことを期待したいと思います。

（常務理事 田口正信）

研修の詳しい内容は「こちらを」ご覧ください



次ページに参加高校生の声



青森県立  
八戸高等学校  
おおの はるか  
大野 陽香さん

研修前はエネルギーについて漠然とした不安を抱いているだけでしたが、研修で世界的なエネルギーの現状や原子力の可能性、多様な再生可能エネルギーについて学び、エネルギー開発について自分なりに現実的な意見を持つことができました。

特に核燃料はリサイクルができること、日本は地熱発電に伸びしろが大きいこと、再生可能エネルギーの内訳は各国の自然環境によってまったく異なることなどが印象に残っています。また、エネルギーや英語の教育の遅れも実感できました。海外の高校生とうまくコミュニケーションが取れず、「好きな曲を5曲以上聞くと」という目標を達成できず悔しいので、これから外国人や初対面の人と会話し協力する能力を鍛えたいです。

エネルギーや異文化について直に学べるまたとない機会を設けていただいたことに感謝し、将来につなげていきたいと思っています。



青森県立  
田名部高等学校  
つば さえら  
坪 紗衣来さん

私は今回の研修に参加する上で、目標としていたのは原子力に対する日本と海外の人たちの意見の違いを見つけることでした。

主に高校生との交流をしていく上で、たくさん発信がありました。まず、フランスでの交流です。現地の高校生は、フランスは原子力に頼りすぎているという意見を持っていました。それに加えて日本の原子力政策に対しては正しい情報を国民に積極的に伝えていくべきだ、といった意見も見られました。スウェーデンでは原子力が最も良いという考えを持った高校生が多く、日本との違いを感じました。

このような交流を通じて感じたのは、両国ともにエネルギー教育がしっかりと行われているということです。フランスでは小学生のころから発電所の見学を行ったり、家に原子力に関する広報誌が配られるそうです。このような取り組みをすることで、原子力に関する正しい情報を伝えられているのだと思います。

今回の研修を通じて意見の違いを見つけ、未来のエネルギー事情に対しても考えるきっかけになりました。



青森県立  
五所川原工科大学  
高等学校  
こがわ らいど  
古川 雷音さん

今回の研修を通して、私は自分の成長を実感しました。私の目標の一つに「自分の考えを伝えること」と時間を意識して行動することができました。どちらも自分の弱点だと感じていましたが、達成することができ、とてもうれしかったです。相手から受けた質問に対して、自分の考えをまとめて伝えることができ自信を持つことができました。また、「何が起るかわからない」という状況を考え、常に早めに行動することを意識し、急なハプニングにも落ち着いて対応することができました。成長を実感した中でも、特に印象に残っているのは「コミュニケーション」です。1回目の交流会での反省点を踏まえ、2回目の交流会ではリラックスして取り組むことができ、話す回数も笑顔も自然に増えました。

今回の経験から、目標は一つ一つコツコツと努力することで達成できるのだとあらためて学びました。また、この研修会で得た成果を自分の強みとして、さらに成長していきたいと思っています。



青森県立  
弘前中央高等学校  
はなだ なゆかさん

研修会では、フランスとスウェーデンのエネルギー事情を現地で学び、日本との違いを実感することができました。出発前に立てていた「積極的なコミュニケーション」と「エネルギー理解を深める」という目標は、概ね達成できたと感じています。

現地高校生との交流ではエネルギー問題に対する関心の高さを実感するとともに、自分の考えを英語で伝える難しさを感じました。多様な意見に触れる中で、原子力発電に対する考えが変化し、エネルギーに関する理解も深まりました。

1回目の交流では自分から積極的に話しかけることができませんでしたが、2回目の交流では自分から現地の人々の輪に飛び込むことができ、少し積極性が身についたと思います。生活面では現地の価値観や日常に触れ、その良さを感ずる一方で、自国の良さをあらためて認識する機会にもなりました。今回の研修を通して、エネルギー問題を自分事として捉えていきたいという思いが強まりました。



八戸聖ウルスラ  
学院高等学校  
さんのへ ひとみ  
三戸 瞳さん

今回の高校生による海外エネルギー事情研修会に参加させていただき、私はエネルギーに関わるさまざまな知識を身に付けるだけでなく、現地高校生との交流を通じて文化や考え方の違いに触れることができました。

今まで私はエネルギーや原子力について自分から考えようとすることがありませんでした。しかし、研修を通してエネルギーは自分のとても身近にあるものであり、日本のこれからのエネルギー事情を自分事として考える必要があると感じました。フランスやスウェーデンの高校を訪問して驚いたのは高校生の皆さんがエネルギーや環境について強く関心を持っている点でした。学校の活動でエネルギーについて考えたり、原子力関係施設に訪問する機会があるため、興味を持ったとお話していました。

日本で多くの人にエネルギーに興味を持ってもらうためには、正しい情報を伝えて自分で考える機会を持つことが大切だと考えました。私も研修を通して学んだことを周りの友達、家族に伝えるところからエネルギーの大切さを広めていきたいです。



青森県立  
青森工業高等学校  
ほり しょういちろう  
堀 翔一朗さん

私はこの研修会を通して、フランス・スウェーデン・日本のそれぞれのエネルギー事情や原子力に対する考え方を学び、意見交換によって自分の意見を共有することができました。

また、現地での滞在から、異なる文化に触れ、異なる価値観を理解することができました。高校生との交流では、エネルギーに関するディスカッションや文化のことで会話が盛り上がり、友達をつくることができました。英語で伝えきれないところは、ジェスチャーなどを駆使してなんとか伝えることができました。したが、語彙力が足りないと感じたので、英語の勉強をもっとしたいと思いました。

将来は原子力に携わる仕事をしたいと思っています。私にとって、この研修会はとても楽しく、有意義なものになったと思います。

最後に、私はこの研修会に参加させていただいたことを感謝し誇りに思います。この研修会で学んだことをこれから生かせるように努力していきます。